

Ⅱ 国勢調査 100 年間の人口推移

II 国勢調査 100 年間の人口推移

1 総人口・男女別人口・人口密度

神奈川県は100年間で約7.0倍に、人口増加率は過去2番目に低い

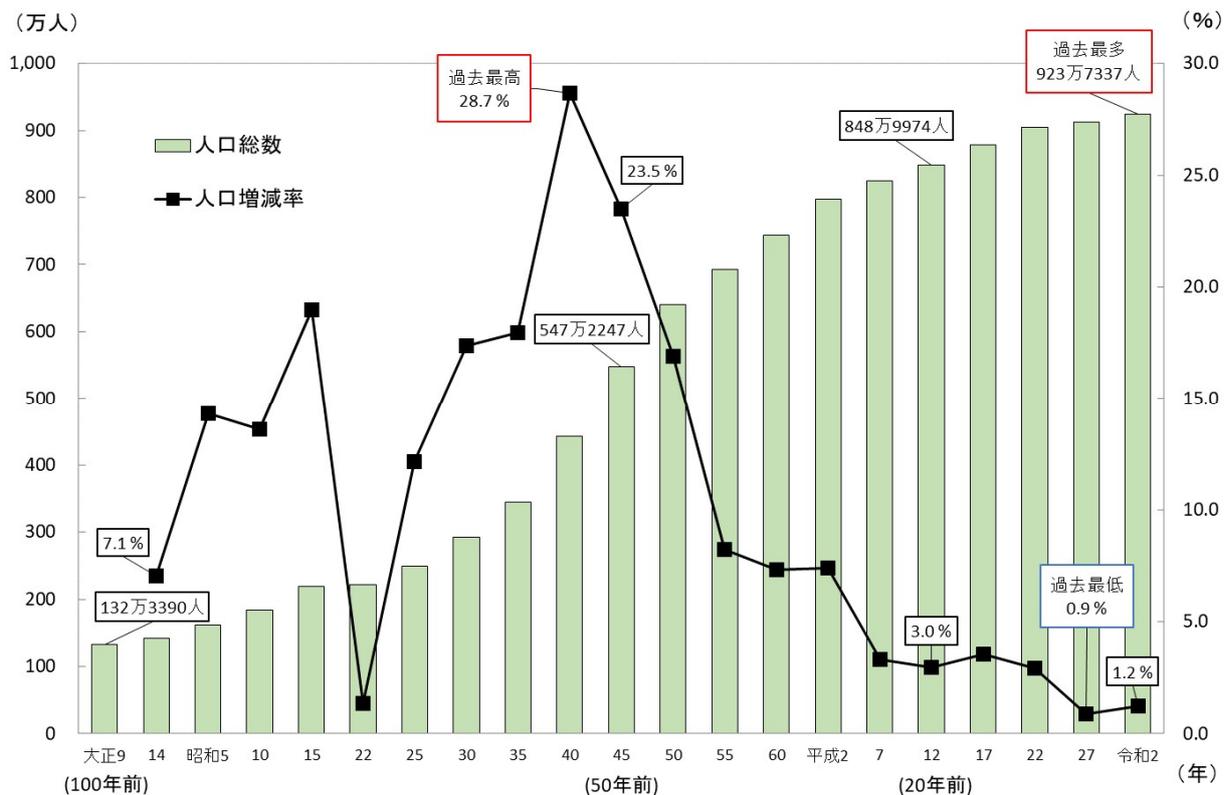
神奈川県の総人口（令和2年、923万7337人）は100年前の大正9年（132万3390人）以降、一貫して増加しており、この100年間で約7.0倍、50年前（昭和45年、547万2247人）の約1.7倍、20年前（平成12年、848万9974人）の約1.1倍となった。

前回調査からの人口増減率をみると、太平洋戦争後、昭和25年～30年から昭和45年～50年までは16%以上の増加であったが、その後増加率は落ち着き、平成22年～27年（0.9%増）は過去最も低く、平成27年～令和2年（1.2%増）は過去2番目に低い増加率である。

大正9～14年の人口増減率は7.1%の増加、昭和40年～45年は23.5%の増加、平成7年～12年は3.0%の増加であり、増加率が最も高かったのは、昭和35年～40年（28.7%増）であった。

（図Ⅱ－1－1）

図Ⅱ－1－1 総人口及び前回調査からの人口増減率の推移－神奈川県（大正9年～令和2年）



男性人口は100年間で約6.7倍、女性人口は約7.3倍に

神奈川県男性人口（令和2年、458万8268人）は、100年前の大正9年（68万9751人）以降、戦後間もない昭和22年（昭和15年と比べ2万2825人減）を除き、増加している。この100年間で約6.7倍、50年前（昭和45年、282万2212人）の約1.6倍、20年前（平成12年、430万8786人）の約1.1倍となった。

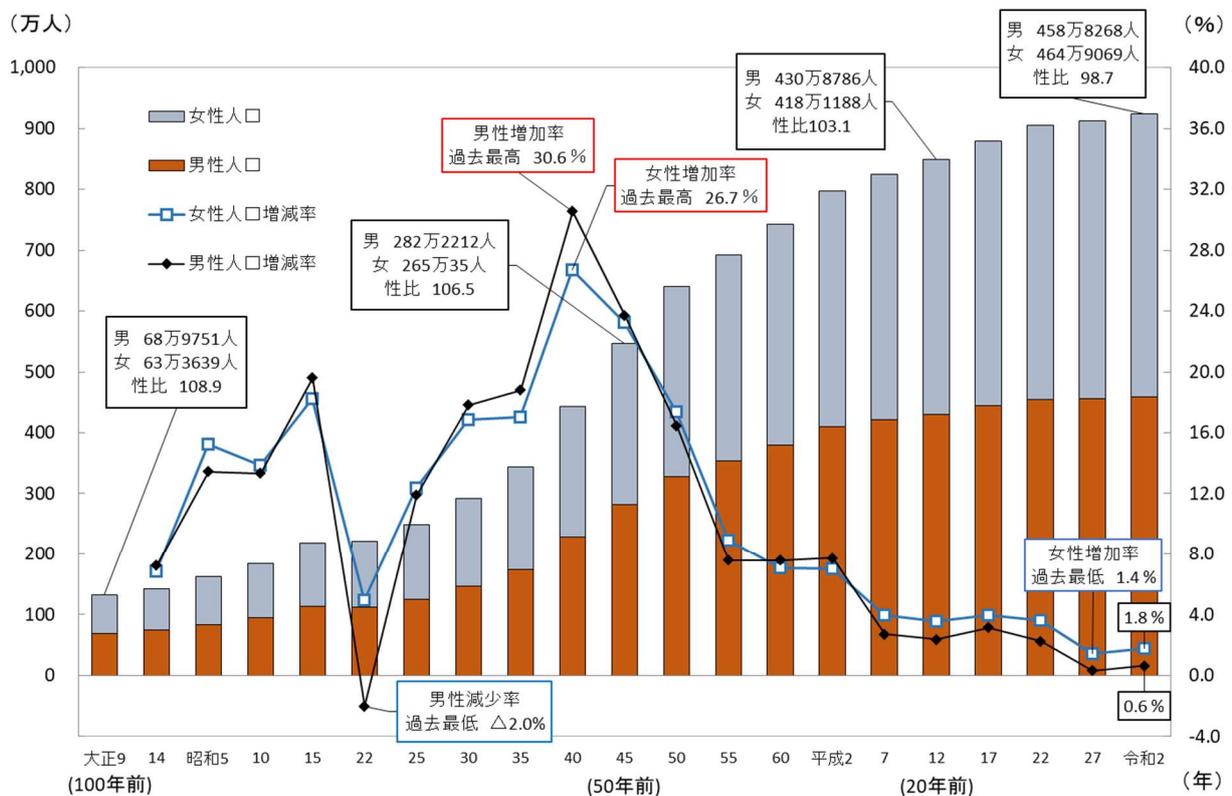
神奈川県女性人口（令和2年、464万9069人）は、100年前の大正9年（63万3639人）以降、一貫して増加している。この100年間で約7.3倍、50年前（昭和45年、265万35人）の約1.8倍、20年前（平成12年、418万1188人）の約1.1倍となった。

前回調査からの人口増減率を男女別にみると、男性は昭和22年（2.0%減）が過去最も低く、平成27年～令和2年（0.6%増）は過去3番目に低い増減率であった。女性は平成22年～27年（1.4%増）が過去最も低く、平成27年～令和2年（1.8%増）は過去2番目に低い増減率であった。増減率が最も高かったのは、男女ともに昭和35年～40年（男性は30.6%増、女性は26.7%増）であった。

神奈川県人口性比（令和2年、98.7）は、100年前の大正9年は108.9、50年前の昭和45年は106.5、20年前の平成12年は103.1であり、平成22年（100.9）まで100以上（男性人口＞女性人口）であった。人口性比が最も高かったのは、大正14年（109.2）であった。

（図Ⅱ-1-2、第1表）

図Ⅱ-1-2 男女別人口及び前回調査からの人口増減率の推移—神奈川県（大正9年～令和2年）



人口密度は調査開始以降、一貫して高くなっている

神奈川県的人口密度（令和2年、3,823人/km²）は、100年前の大正9年は563人/km²、50年前の昭和45年は2,295人/km²、20年前の平成12年は3,515人/km²であった。調査開始以降、一貫して高くなっている。

（第1表）

2 年齢別人口

15歳未満人口は100年間で23.0ポイント低下、65歳以上人口は21.3ポイント上昇

神奈川県総人口に占める15歳未満人口の割合（令和2年、12.0%）は、100年前の大正9年は35.1%、50年前の昭和45年は23.8%、20年前の平成12年は14.0%であり、100年間で23.0ポイント、50年間で11.8ポイント、20年間で1.9ポイント低下した。

大正9年から昭和30年までは30%台、昭和35年から昭和60年までは20%台、平成2年以降は10%台と大きく低下している。15歳未満人口の割合が最も高かったのは昭和5年（35.9%）であった。

神奈川県総人口に占める15～64歳人口の割合（令和2年、62.4%）は、100年前の大正9年は60.6%、50年前の昭和45年は71.5%、20年前の平成12年は72.2%であり、100年間で1.7ポイント上昇し、50年間で9.2ポイント、20年間で9.8ポイント低下した。

昭和35年から平成22年までは65%以上であったが、平成27年（63.5%）には65%を下回った。15～64歳人口の割合が最も高かったのは、平成7年（74.0%）であった。

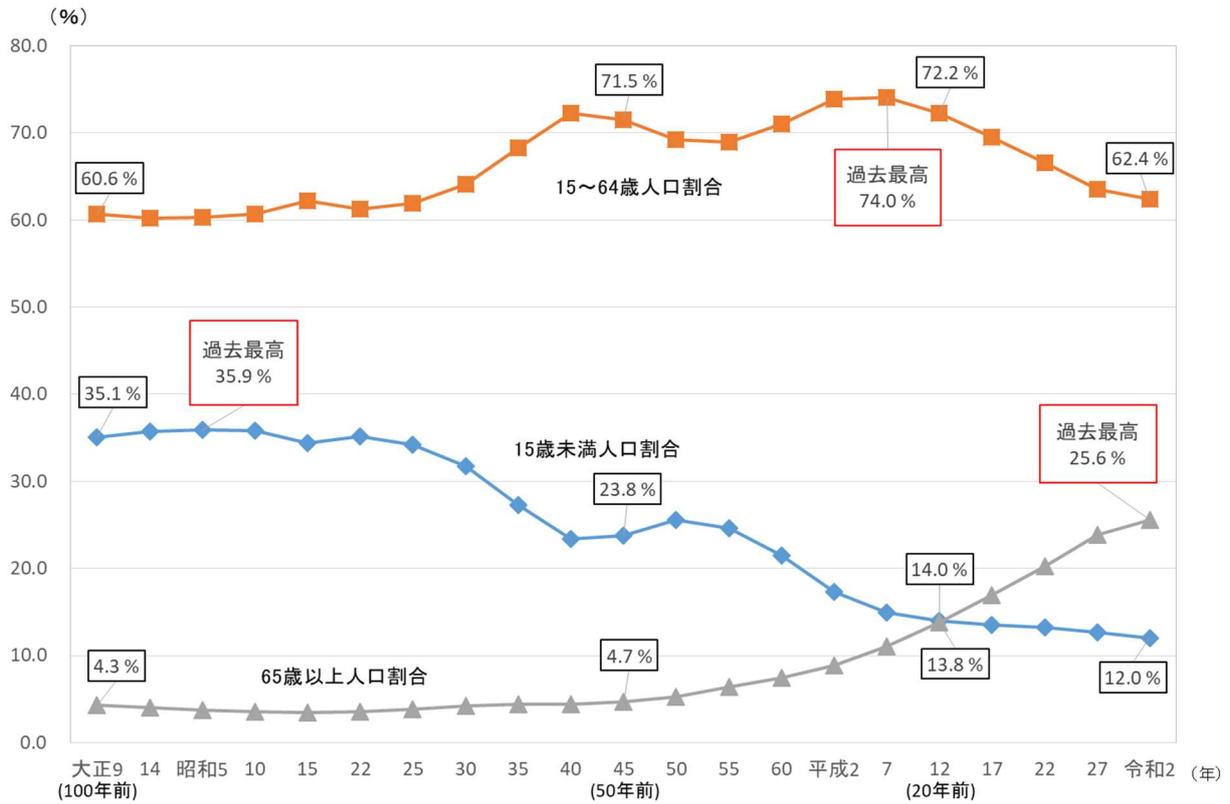
神奈川県総人口に占める65歳以上人口の割合（令和2年、25.6%）は、100年前の大正9年は4.3%、50年前の昭和45年は4.7%、20年前の平成12年は13.8%であり、100年間で21.3ポイント、50年間で20.9ポイント、20年間で11.8ポイント上昇した。

大正9年から昭和45年までは5%以下、昭和50年から平成2年までは10%以下であったが、平成7年（11.0%）には10%、平成22年（20.2%）には20%を超え、令和2年は過去最高となった。

なお、平成12年までは15歳未満人口の割合が65歳以上人口の割合を上回っていたが、平成17年に65歳以上人口の割合が15歳未満人口の割合を上回り、以降その差は広がっている。

（図Ⅱ-2-1、表Ⅱ-2-1、図Ⅱ-2-2）

図Ⅱ－２－１ 年齢（３区分）別人口の割合の推移－神奈川県（大正９年～令和２年）

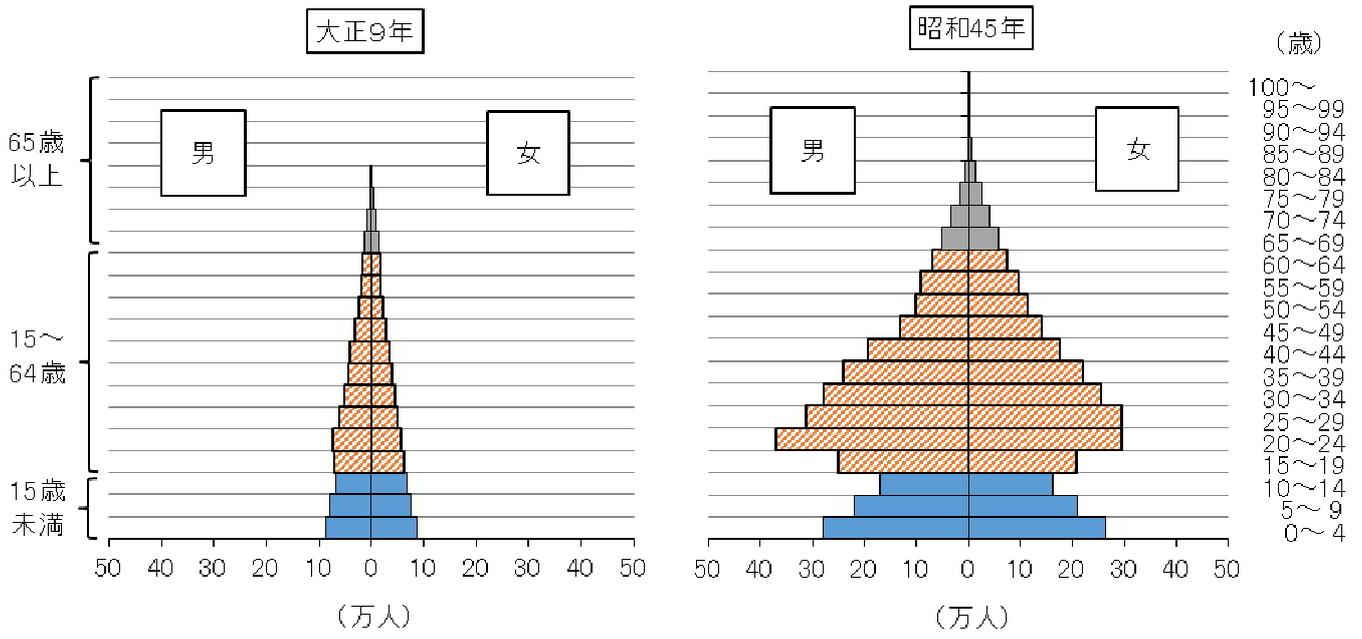


表Ⅱ－２－１ 年齢（３区分）別人口の推移－神奈川県（大正９年～令和２年）

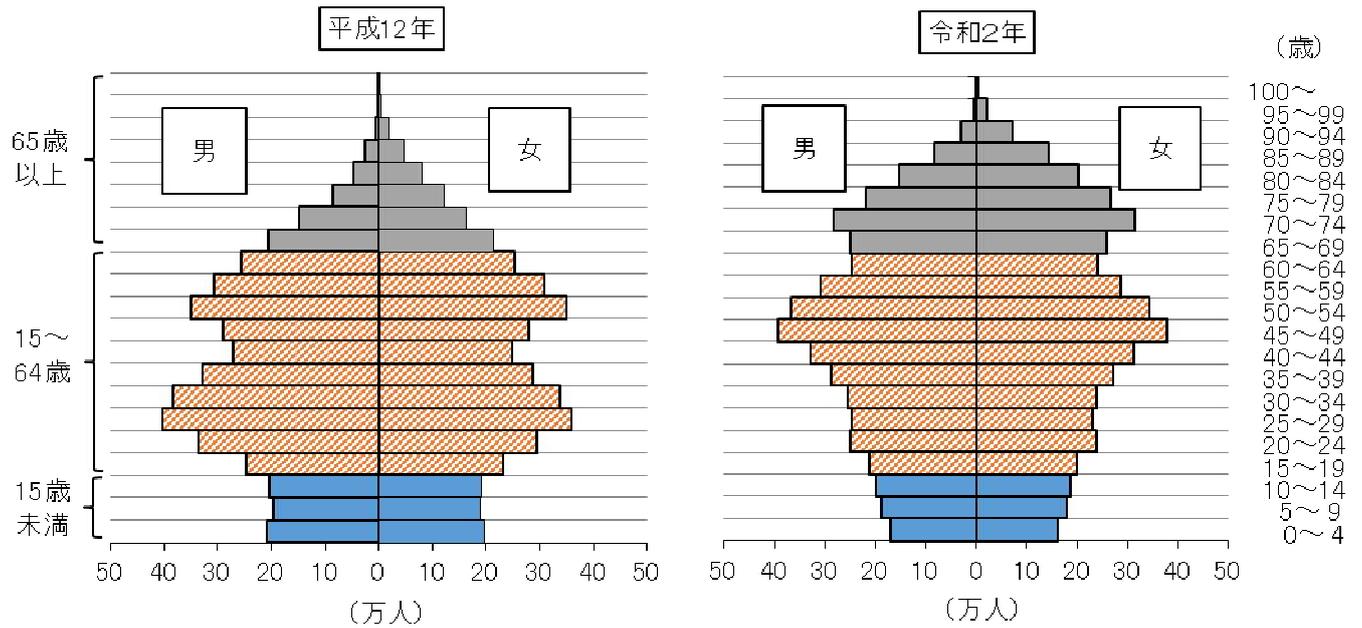
年次	実数					割合		
	総数	15歳未満	15～64歳	65歳以上	年齢「不詳」	15歳未満	15～64歳	65歳以上
	人	人	人	人	人	%	%	%
大正9年	1,323,390	463,999	802,505	56,886	-	35.1	60.6	4.3
14年	1,416,792	506,536	853,669	56,587	-	35.8	60.3	4.0
昭和5年	1,619,606	581,428	977,460	60,718	-	35.9	60.4	3.7
10年	1,840,005	658,408	1,115,825	65,772	-	35.8	60.6	3.6
15年	2,183,019	749,959	1,358,407	74,630	23	34.4	62.2	3.4
22年	2,218,120	780,540	1,359,104	78,476	-	35.2	61.3	3.5
25年	2,487,665	851,783	1,539,478	96,291	113	34.2	61.9	3.9
30年	2,919,497	927,520	1,870,173	121,767	37	31.8	64.1	4.2
35年	3,443,176	940,719	2,351,581	150,876	-	27.3	68.3	4.4
40年	4,430,743	1,035,303	3,201,686	193,754	-	23.4	72.3	4.4
45年	5,472,247	1,301,772	3,914,556	255,919	-	23.8	71.5	4.7
50年	6,397,748	1,632,021	4,424,772	337,305	3,650	25.5	69.2	5.3
55年	6,924,348	1,703,063	4,772,542	443,048	5,695	24.6	69.0	6.4
60年	7,431,974	1,595,127	5,277,568	555,885	3,394	21.5	71.0	7.5
平成2年	7,980,391	1,375,769	5,874,445	704,596	25,581	17.3	73.8	8.9
7年	8,245,900	1,231,943	6,098,448	908,467	7,042	15.0	74.0	11.0
12年	8,489,974	1,184,231	6,121,470	1,169,528	14,745	14.0	72.2	13.8
17年	8,791,597	1,184,631	6,088,141	1,480,262	38,563	13.5	69.6	16.9
22年	9,048,331	1,187,743	5,988,857	1,819,503	52,228	13.2	66.6	20.2
27年	9,126,214	1,140,748	5,744,383	2,158,157	82,926	12.6	63.5	23.9
令和2年	9,237,337	1,085,763	5,628,918	2,308,578	214,078	12.0	62.4	25.6

注) 昭和15年は、旧外地人(朝鮮、台湾、樺太及び南洋群島)以外の外国人を除く。

図Ⅱ-2-2 人口ピラミッドの推移—神奈川県（大正9年、昭和45年、平成12年、令和2年）



注) 大正9年の80～84歳階級には、85歳以上の人口を含む。



3 配偶関係別人口

15歳以上人口でみる「未婚」の割合は、すべての年齢階級（5歳階級）で上昇

神奈川県は15歳以上人口を配偶関係別にみると、「未婚」の割合（令和2年、29.4%）は、100年前の大正9年は30.1%、50年前の昭和45年は32.2%、20年前の平成12年は31.2%であった。

また、「離別」の割合（令和2年、4.5%）は、100年前の大正9年は1.6%、50年前の昭和45年は1.3%、20年前の平成12年は3.2%であった。

（表Ⅱ－3－1）

表Ⅱ－3－1 配偶関係、男女別15歳以上人口

－神奈川県（大正9年、昭和45年、平成12年、令和2年）

男女、配偶関係	大正9年		昭和45年		平成12年		令和2年	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
	人	%	人	%	人	%	人	%
総数								
15歳以上人口	859,391	-	4,170,475	-	7,290,998	-	7,937,496	-
未婚	258,656	30.1	1,341,915	32.2	2,249,699	31.2	2,210,041	29.4
有配偶	510,992	59.5	2,546,447	61.1	4,295,659	59.6	4,436,032	58.9
死別	76,195	8.9	227,237	5.5	432,006	6.0	540,609	7.2
離別	13,548	1.6	53,885	1.3	232,657	3.2	342,330	4.5
配偶関係「不詳」	-	-	991	-	80,977	-	408,484	-
男								
15歳以上人口	456,245	-	2,155,009	-	3,691,903	-	3,916,124	-
未婚	169,288	37.1	823,242	38.2	1,325,115	36.4	1,247,300	33.9
有配偶	256,956	56.3	1,278,002	59.3	2,146,130	58.9	2,205,373	60.0
死別	23,160	5.1	35,559	1.7	76,786	2.1	99,010	2.7
離別	6,841	1.5	17,461	0.8	92,565	2.5	124,902	3.4
配偶関係「不詳」	-	-	745	-	51,307	-	239,539	-
女								
15歳以上人口	403,146	-	2,015,466	-	3,599,095	-	4,021,372	-
未婚	89,368	22.2	518,673	25.7	924,584	25.9	962,741	25.0
有配偶	254,036	63.0	1,268,445	62.9	2,149,529	60.2	2,230,659	57.9
死別	53,035	13.2	191,678	9.5	355,220	10.0	441,599	11.5
離別	6,707	1.7	36,424	1.8	140,092	3.9	217,428	5.6
配偶関係「不詳」	-	-	246	-	29,670	-	168,945	-

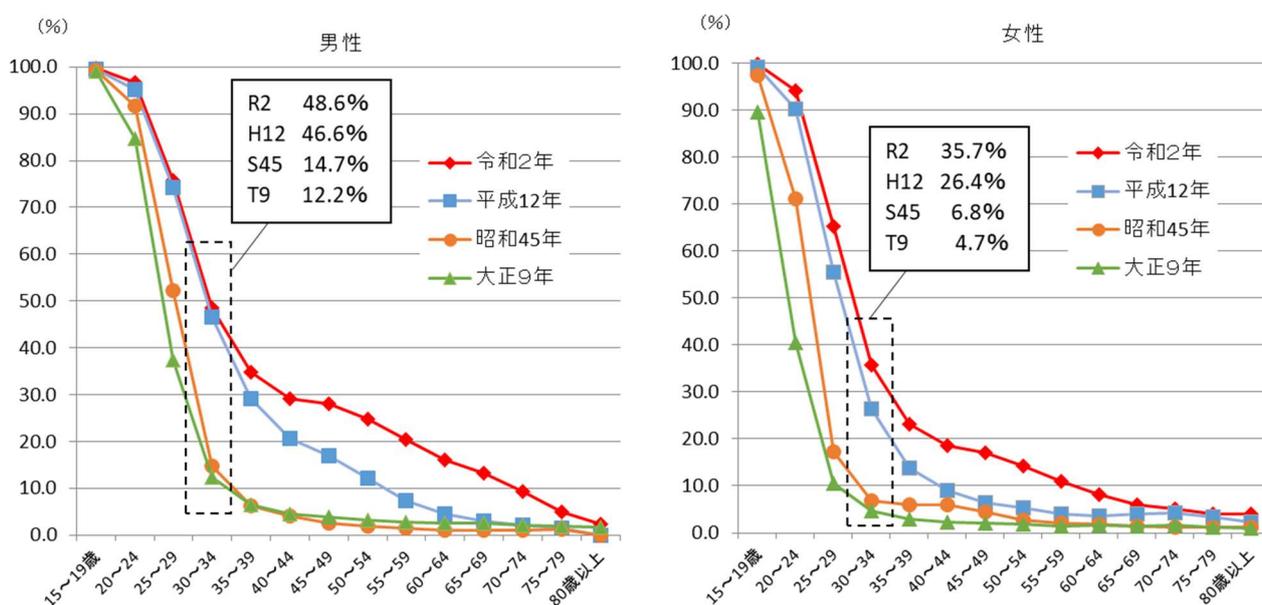
年齢5歳階級別の「未婚」の割合の推移を男女別にみると、男性の30～34歳の「未婚」の割合（令和2年、48.6%）は、100年前の大正9年は12.2%、50年前の昭和45年は14.7%、20年前の平成12年は46.6%であり、100年間で36.4ポイント、50年間で33.9ポイント、20年間で2.0ポイント上昇した。

女性の30～34歳の「未婚」の割合（令和2年、35.7%）は、100年前の大正9年は4.7%、50年前の昭和45年は6.8%、20年前の平成12年は26.4%であり、100年間で31.0ポイント、50年間で28.9ポイント、20年間で9.3ポイント上昇した。

20年前の平成12年と比べると、令和2年における「未婚」の割合は、すべての年齢階級で上昇しており、男性は40～44歳から70～74歳、女性は25～29歳から55～59歳の各年齢階級で特に上昇幅が大きくなっている。

（図Ⅱ-3-1、表Ⅱ-3-2）

図Ⅱ-3-1 年齢（5歳階級）、男女別15歳以上人口における未婚の割合
—神奈川県（大正9年、昭和45年、平成12年、令和2年）



表Ⅱ-3-2 年齢（5歳階級）、男女別15歳以上人口における未婚の割合
—神奈川県（大正9年、昭和45年、平成12年、令和2年）

男	未婚の割合				女	未婚の割合			
	大正9年	昭和45年	平成12年	令和2年		大正9年	昭和45年	平成12年	令和2年
	%	%	%	%		%	%	%	%
15～19歳	99.1	99.3	99.6	99.8	15～19歳	89.5	97.3	99.2	99.7
20～24	84.6	91.7	95.2	96.7	20～24	40.5	71.2	90.3	94.2
25～29	37.5	52.2	74.2	75.8	25～29	10.6	17.4	55.4	65.3
30～34	12.2	14.7	46.6	48.6	30～34	4.7	6.8	26.4	35.7
35～39	6.6	6.2	29.1	34.9	35～39	2.9	6.0	13.9	23.2
40～44	4.4	4.0	20.6	29.1	40～44	2.3	6.0	8.9	18.6
45～49	3.7	2.6	16.9	28.1	45～49	2.0	4.4	6.5	17.0
50～54	3.2	1.8	12.1	24.7	50～54	1.8	2.8	5.2	14.3
55～59	2.8	1.4	7.2	20.3	55～59	1.5	2.1	4.0	11.0
60～64	2.6	1.0	4.5	16.1	60～64	1.5	1.8	3.6	8.1
65～69	2.5	1.0	3.0	13.3	65～69	1.5	1.4	4.1	6.0
70～74	2.2	1.0	2.0	9.3	70～74	1.6	1.2	4.3	5.0
75～79	1.9	1.2	1.4	5.0	75～79	1.2	1.1	3.4	3.9
80歳以上	1.7	1.6	0.9	2.4	80歳以上	1.1	1.1	2.2	4.0

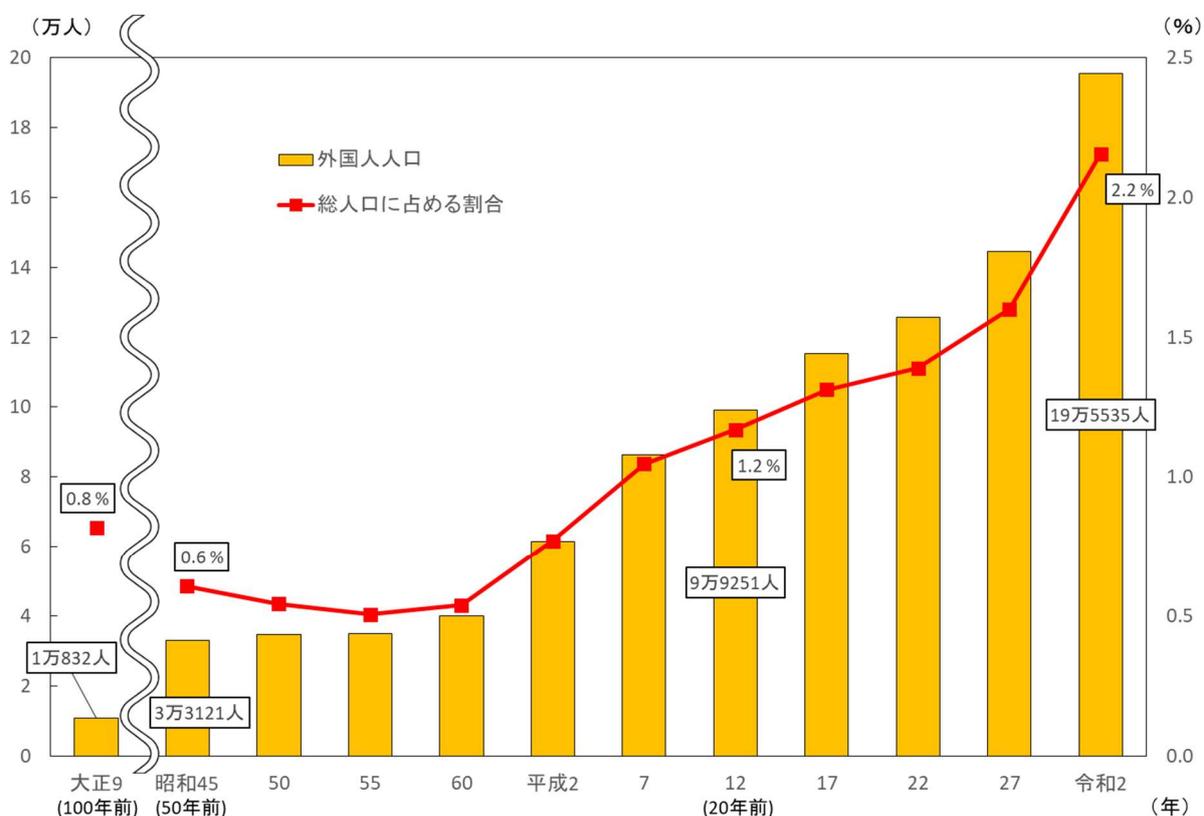
4 外国人人口

外国人人口は100年間で約18.1倍に
 総人口に占める割合は0.8%から2.2%へ上昇

神奈川県外国人人口19万5535人（総人口の2.2%）は、100年前の大正9年1万832人（総人口の0.8%）の約18.1倍、総人口に占める割合は1.3ポイント上昇、50年前の昭和45年3万3121人（総人口の0.6%）の約5.9倍、総人口に占める割合は1.6ポイント上昇、20年前の平成12年9万9251人（総人口の1.2%）の約2.0倍、総人口に占める割合は1.0ポイント上昇した。

（図Ⅱ-4-1、表Ⅱ-4-1）

図Ⅱ-4-1 外国人人口及び総人口に占める割合の推移—神奈川県（大正9年、昭和45年～令和2年）



表Ⅱ-4-1 外国人人口の推移—神奈川県（大正9年、昭和45年～令和2年）

年次	総人口	外国人人口	日本人・外国人の別「不詳」	総人口に占める外国人人口の割合	年次	総人口	外国人人口	日本人・外国人の別「不詳」	総人口に占める外国人人口の割合
	人	人	人	%		人	人	人	%
大正9年	1,323,390	10,832	-	0.8	平成2年	7,980,391	61,556	-	0.8
昭和45年	5,472,247	33,121	-	0.6	7年	8,245,900	86,400	-	1.0
50年	6,397,748	34,764	-	0.5	12年	8,489,974	99,251	-	1.2
55年	6,924,348	35,006	-	0.5	17年	8,791,597	115,412	-	1.3
60年	7,431,974	40,034	-	0.5	22年	9,048,331	125,686	-	1.4
					27年	9,126,214	144,500	94,410	1.6
					令和2年	9,237,337	195,535	164,968	2.2

注 1) 大正9年の外国人は、植民地人を含む。

2) 平成27年及び令和2年の外国人人口の割合は、総人口から不詳を除いて算出しているが、平成22年以前は総人口を分母としている。

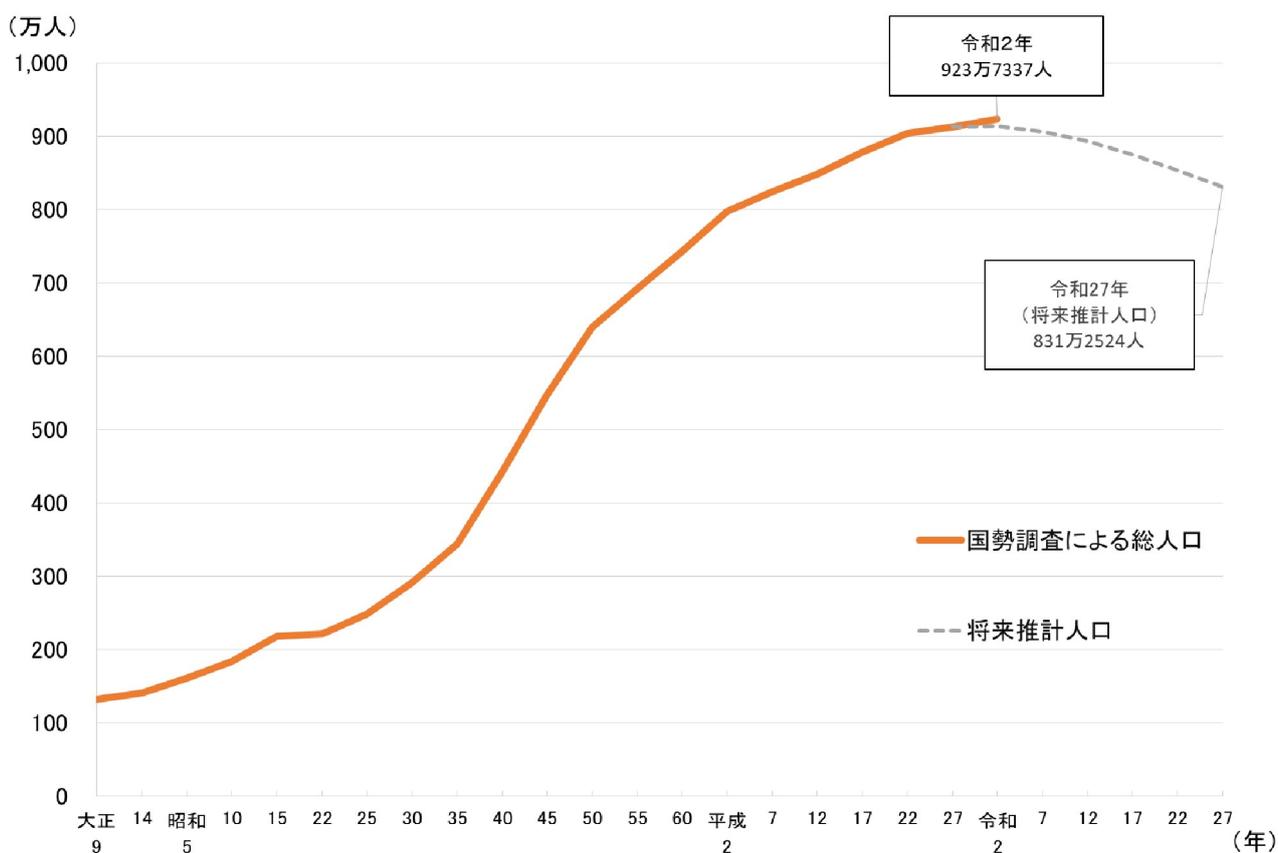
TOPICS ② これからの神奈川県的人口は？

令和2年国勢調査による神奈川県のご総人口は923万7337人で過去最多でした。

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成27年国勢調査を基礎とする）によると、県のご総人口は令和2年にピークを迎え、その後減少し、25年後の令和27年には831万2524人となると推計されています。

なお、国勢調査による全国のご総人口は平成22年をピークとして減少しています。

図 国勢調査によるご総人口と将来推計人口ー神奈川県（大正9年～令和27年）



注) 将来推計人口の平成27年から令和27年までは国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」による。

TOPICS ③ 489 人の町、16,949 人の村！？ ～100 年前の神奈川県～

100 年前の大正9年国勢調査時には、神奈川県には 200 の市町村があり、横濱市が 422,938 人で最も人口が多く、蘆ノ湯村が 137 人で最も少ない人口です。人口規模別の市町村数は 10 万人以上が1市、1万人以上 10 万人未満が 16 市町村、千人以上1万人未満が最も多い 157 町村、千人未満が 26 町村です。

(参考 3-1)

50 年前の昭和 45 年国勢調査時には、51 の市区町村があり、川崎市が 973,486 人で最も人口が多く、清川村が 2,757 人で最も少ない人口です。人口規模別の市区町村数は 10 万人以上が 21 市区、1万人以上 10 万人未満が最も多い 22 市区町、千人以上1万人未満が8町村、千人未満の市区町村はありません。

(参考 3-2)

令和2年国勢調査時には、58 の市区町村があり、藤沢市が 436,905 人で最も人口が多く、清川村が 3,038 人で最も少ない人口です。人口規模別の市区町村数は 10 万人以上が最も多い 40 市区、1万人以上 10 万人未満が 14 市町、千人以上1万人未満が4町村、千人未満の市区町村はありません。

神奈川県	大正9年国勢調査 (100年前)	昭和45年国勢調査 (50年前)	令和2年国勢調査
市区町村数	200(2市、22町、176村)	51(13市、14区、23町、1村)	58(16市、28区、13町、1村)
人口が最も多い市	横濱市(422,938人)	川崎市(973,486人)	藤沢市(436,905人)
人口が最も少ない市	横須賀市(89,879人)	三浦市(45,532人)	南足柄市(40,841人)
人口が最も多い町	小田原町(23,014人)	座間町(56,727人)	寒川町(48,348人)
人口が最も少ない町	小原町(489人)	中井町(6,028人)	真鶴町(6,722人)
人口が最も多い村	町田村(16,949人)	清川村(2,757人)	清川村(3,038人)
人口が最も少ない村	蘆ノ湯村(137人)	—	—
人口が最も多い区	—	横浜市鶴見区(256,360人)	横浜市港北区(358,530人)
人口が最も少ない区	—	横浜市瀬谷区(76,492人)	横浜市西区(104,935人)

注 1) 市区町村名は可能な限り当時の漢字で表記。

2) 「—」は該当の市区町村がないことを表す。

3) 昭和45年国勢調査における51市区町村とは、指定都市の横浜市14区と指定都市以外の37市町村。

4) 令和2年国勢調査における58市区町村とは、指定都市の横浜市18区、川崎市7区、相模原市3区の計28区と指定都市以外の30市町村。

